

全学共通教育の平成 25 年度実施に 向けた研修会 (FD) 報告

大学教育開発センター調査研究部編

第 1 部「全般的課題」では、全学共通教育の課題、昨年度から実施されているシラバスチェックについて、また今年度導入されたアクティブラーニングのシステムについての説明がなされた。続く第 2 部「分科会」では、授業担当者を中心に 7 つの分科会に分かれ、より具体的な討論と情報交換を行った。

日時：平成 24 年 12 月 11 日 (火) 13:30 - 17:00

場所：教育学部 313 講義室ほか

対象：全教員 (特に平成 25 年度全学共通教育担当予定の教員)

第 1 部 全般的課題

1. 全学共通教育の課題について
2. シラバスチェックについて
3. アクティブラーニングについて
4. 全学共通教育に関する事務手続きについて

第 2 部 分科会

1. 主題科目「主題 A」分科会
2. 主題科目「主題 B」分科会
3. 学問基礎科目分科会
4. コミュニケーション科目「大学入門ゼミ」分科会
5. コミュニケーション科目「情報リテラシー」分科会
6. コミュニケーション科目「外国語」既修外国語分科会
7. コミュニケーション科目「外国語」初修外国語分科会

以下、当日の提題者と書記が中心となって報告原稿を作成し、研修会の企画・実施にあたった大学教育開発センター調査研究部 (FD 部門) が編集をおこなった。

【大学教育開発センター調査研究部 (FD 部門)】平篤志 (調査研究部部長・アーツ・サイエンス研究院)、高橋尚志 (教育学研究院)、金宗郁 (法学研究院)、柴田明 (経済学研究院)、岡田宏基 (医学研究院)、石井知彦 (工学研究院)、柳智博 (農学研究院)、葛城浩一 (大学教育開発センター)、佐藤慶太 (大学教育開発センター)

【その他の執筆者】田中健二 (共通教育部長・教育学研究院)、中谷博幸 (共通教育コーディネーター・アーツ・サイエンス研究院)、寺尾徹 (共通教育コーディネーター・アーツ・サイエンス研究院)、林敏浩 (共通教育コーディネーター・総合情報センター)、野口里美 (修学支援グループ)

第1部・全般的課題

司会：葛城浩一（大学教育開発センター） 記録：柴田明（経済学研究院）

1. 全学共通教育の課題について

中 谷 博 幸（共通教育コーディネーター・アーツ・サイエンス研究院）

大学教育開発センター・調査研究部におけるワーキンググループでの検討を踏まえて、全学共通教育の課題として①改革継続性の問題、②共通教育コーディネーターの役割と課題、③学問基礎科目の課題、④「21世紀型市民」運用の問題と改善、の4つが提示された。①については、2010年からの共通教育改革における「共通教育コーディネーター制」が完全な形で実施されていないことが指摘され、大学の教育計画の継続性の問題が指摘された。②については、共通教育コーディネーターの役割を明確にし、その課題として学問基礎科目や主題科目、大学入門ゼミの改善などが挙げられた。③については、学問基礎科目の位置づけを再確認した上で5つの問題点が指摘され、その解決の一例として、来年度からカリキュラムマップを作成することになったことが説明された。最後に④について、香川大学の「共通教育スタンダード」とその背景にある中教審答申を再確認し、「総合的な学習経験と創造的思考力」が重要であることが指摘され、これを実現する科目である主題Bや大学入門ゼミの改善ポイントが説明された。

2. シラバスチェックについて

平 篤 志（調査研究部長・アーツ・サイエンス研究院）

平成25年度の全学共通教育シラバスならびにシラバスチェックについて説明がなされた。まず香川大学共通教育スタンダードの項目を確認した上で、①21世紀社会の諸課題に対する探求能力については主題Bや大学入門ゼミなどが、②課題解決のための汎用的スキルについては大学入門ゼミ、情報リテラシー、外国語科目、健康・スポーツ実技などが、③広範な人文・社会・自然に関する知識については学問基礎科目などが、④地域に関する関心と理解力については主題B-7などが、⑤市民としての責任感と倫理観については主題Aなどが対応していることが説明された。またシラバスの書き方について、「シラバス作成ガイドライン」に従って作成時の注意点が説明され、作成後にシラバスチェックが実施されることが説明された。

3. アクティブラーニングについて

寺 尾 徹 (共通教育コーディネーター・アーツ・サイエンス研究院)

この度導入された遠隔実践型教育システムやアクティブラーニング型教室について包括的な説明がなされた。まずシステム導入の経緯が説明され、開発に当たって留意したこととして、保守管理に人員を配置できない現状を踏まえた様々な工夫がなされたことなどが説明された。その後、導入やチェック、試用の状況や、各教室への導入機器一覧が提示された。そして具体的な利用のイメージとして、幸町ないし遠隔地からの授業配信の事例、講義の簡易収録システムとその利用イメージ (例: 卒論報告や模擬授業、授業改善など)、簡易ウェブ会議システムによる配信、アクティブラーニングでの利用や教室間の連携、新しい教卓システムの使い方などが詳細に説明された。最後にまとめとして、これらシステムの可能性や留意事項、解決すべき課題などが指摘された。

第2部・分科会

1. 主題科目「主題 A」分科会

司会・記録：葛城浩一（大学教育開発センター）

主題 A「人生とキャリア」は、平成 23 年度の全学共通教育のカリキュラム改編に伴い、必修化されている授業である。必修である以上、その単位を落とした学生は卒業までに再度履修し、単位をとらなければならない。はたして学生たちは単位をきちんととれているのだろうか。前回の主題 A 担当者会議ではそうした疑問の声があがっていた。

そこで、本分科会では、学生が主題 A の単位をきちんととれているのか、平成 23 年度入学生のデータに基づいて報告がなされた。平成 23 年度入学生のうち、平成 23 年度中に単位をとれている学生は 95.8%である。また、平成 24 年度前期中に単位をとれている学生は 97.1%である。平成 24 年度後期の成績が確定していないので、平成 24 年度中に単位をとれている学生の値がどこまで伸びるかは現時点ではわからない。しかし、平成 24 年度後期に主題 A を履修していない学生が 28 人いることは確かである。これは平成 23 年度入学生の 2.2%にあたる。この値如何では、今後の成績評価の方法の見直し等を行う必要があるかもしれないと考えていたが、想定範囲内の値であったため、成績評価の基準を緩める必要はないことが確認された。なお、このデータを作成するにあたり、現状の教務システムではどの学生が主題 A の単位をとれていないのかの把握が容易にできないことがわかった。そうしたことが容易にできるシステムに改変していくよう担当部署に働きかけていきたい。

2. 主題科目「主題 B」分科会

司会：寺尾 徹（調査研究部委員・アーツ・サイエンス研究院）

記録：岡田宏基（調査研究部委員・医学研究院）

2-1. 遠隔講義に使用できる部屋の使い方の紹介

寺尾主題 B 部会長からの説明とデモ

- ・職員証を用いて鍵のオープン
- ・iPad を使った機器の操作
- ・出力映像を選択：外部 PC を選択
- ・この教室から他学部の講義室へのアクセスが可能なことを説明
→試しに工学部にアクセスし、工学部の 4301 教室が映った。
スクリーンもリモートで降ろすことができた。
こちらの室内カメラ、PC の画面が工学部側に映写された。

- ・講義収録についての説明とデモ。（画面構成の設定がまだ不十分だった）

2-2. 主題 B についてのディスカッション（検討内容の項目のみ）

- ・単なる講義なのか？双方向型講義は可能か？
大人数ではグループワークなどは難しいが、工夫すれば履修人数によっては可能か。
- ・評価の仕方？担当教員によってまちまち
最期にまとめて試験、一人の担当が終わるごとに試験、講義ごとにミニレポート等々。
- ・講義資料の配付の仕方（特に遠隔講義などの際）
ネットワーク上に置いておくなどの工夫も可能。
- ・講義室の選択はどうしている？教員側の希望は通る？
それぞれの教室の様子がわからない→年度初めはマゴマゴ。
- ・主題 B のテーマは今後変わる？
内容が決まると主題の項目（1-7）が決まってしまうが、それでいいのか？
偏りをどう解決するか？
→コーディネータの役割は？

3. 学問基礎科目分科会

司会：中谷博幸（調査研究部委員・アーツ・サイエンス研究院）

記録：石井知彦（調査研究部委員・工学研究院）

学問基礎科目分科会では、科目領域毎に個別相関図を作成する試みを行った。これは、第一部で中谷学問基礎科目実施部会長から指摘された問題点、「専門外の学生に対する専門基礎の教育の意義や役割が十分に実践されているか」、「学問基礎科目と学部の専門科目との関連性は示されているか」、「大学に入学したばかりの学生に対して、学生各自の関心を基礎にして幅広くかつ関連性を持って授業科目を履修するための手引きを提供しているか」を改善するために、ディシプリン入門としての学問基礎科目の位置づけ、および学問領域の意義やおもしろさを伝えるためのカリキュラムマップを作成することを目的とした。三宅・佐藤両共通教育コーディネーターの原案を元に一時間ほどの作業の後、各科目領域（教育学、法学、政治学、化学、生物学、心理学、数学、物理学、看護学）で修正された個別相関図案が発表された。今回参加していない科目領域を含め、来年度の全てのシラバスが出された時点で再度修正を加え、2月下旬を目処に個別相関図およびカリキュラムマップの作成を完成させる事となった。

4. コミュニケーション科目「大学入門ゼミ」分科会

司会・記録：佐藤慶太（大学教育開発センター）

参加人数は来年度担当者を中心に16名であり、盛況であった。

まず大学教育開発センターの佐藤教員より、大学入門ゼミの概要、平成23年度からの変更点、平成24年度実施状況の報告が行われた。実施状況の中で、今年度の受講者アンケートの結果が紹介され、昨年度に比べ、全学共通コンテンツについての学生の評価が高まっていることが報告された。理由として、昨年度の試行期間を経て、各教員が全学共通コンテンツの指導にいろいろと工夫を凝らしていること、一部のコンテンツの名称が変更されたこと（「ノートのとり方」→「情報整理の方法」）が挙げられるようである。

続いて、小方教員（教育学部学校教育教員養成課程）と末吉教員（農学部）から、それぞれ、大学入門ゼミの実践例の紹介が行われた。この二つの実践例は異なったタイプのものであり、二つを合わせて聴くことで、大学入門ゼミの授業デザインにはいろいろな可能性があるということを改めて感じることができた。

最初に報告があった小方教員の実践は、課程で統一的なプログラムを構築する、というやり方を採用するものである。教育学部学校教育教員養成課程では、「大学入門ゼミ」として6つのクラスが開講されているが、このすべてのクラスで学生は同じプログラム、同じ課題に取り組む（学生が取り組む課題は、学部の特性に即して、学校教育がテーマとされている）。共通コンテンツの指導でも、全体を二つに分けた集合授業の形態が採られている。また「大学入門ゼミ」が後期に開講される「教職概論」とパッケージ化されており、学部のカリキュラムの中にきちんと収まるような位置づけがなされている。15回の授業の組み立てに関してもいろいろと参考になる場所があったが、「大学入門ゼミ」を学部のカリキュラムの中にどう位置づけていくのか、という課題との関係でも、学ぶところが多い報告であった。

次に報告があった末吉教員の実践は、全学共通コンテンツを含め、全ての授業を教員一人が受け持つタイプのものである（大学入門ゼミの前身である「教養ゼミナール」の趣きがなお生きている授業、という感想を述べた参加者もいた）。末吉教員の専門である「酵素」をテーマに、15回の授業が有機的に構成されているほか、様々なところに学生に興味を持たせる仕掛けが組み込まれており、学部に関わらず、授業をデザインする上で参考になる部分が非常に多い報告であった。

5. コミュニケーション科目「情報リテラシー」分科会

司会：林 敏浩（調査研究部委員・総合情報センター）

記録：高橋尚志（調査研究部委員・教育学研究院）

本授業科目は全学共通科目として今年度新たに本格実施したものであるが、大きな混乱も無く概ね順調に進んだことが確認された。特定の OS やソフトウェアの使い方講座のようにはしないで、作製したリーフレットに基づいた「リテラシー」を柱に、セキュリティー問題やプレゼンテーションの初歩などを取り入れて授業を進めたことが報告された。細かな内容については、各学部でその学部にふさわしいもので構成しており、特に難しすぎるとか逆に簡単すぎるとかの問題は出てきていない。今後学生が持つ PC の OS が Windows 8 に変わっていくが、PC ルームは Windows 7 のまま運用するので、その事による配慮が若干必要となると思われる。この件は、その違いが出るときに個別に対応することになるであろうことが語られた。今後この件も含めて、種々の情報交換・意見交換は ML で行うことが確認された。実際の授業では、実際に PC を操作しながら進めるというこの授業の特殊性もあり、多くのスタッフが必要である。今年度は TA を一定数配置することができたが、一人の教員または TA あたりの学生数が多い高負荷状態で実地指導を余儀なくされる実態があり、増員が望まれる。一つ別の懸念が出された。それは高校での教科「情報」の問題である。高校によってその濃淡が問題となり、しっかり学んできた者と名目的にこなしてきた者との差が激しいことが考えられる。まだこの問題は顕在化してないが、今後の動向を見守る必要がある。

6. コミュニケーション科目「外国語」既修外国語分科会

司会・記録：長井克己（大学教育開発センター）

既修外国語分科会では常勤・特命・非常勤の区別なく参加を呼びかけ、全学共通科目の領域会議をさらに拡大したメンバーで分科会を行っている。年末のこの時期は次年度のシラバスを準備する時期であり、依頼をする大学教育開発センターと実際に授業を担当する教員との、貴重な意見・情報交換の機会となっている。

本年度の分科会ではまず、2年目を迎える新カリキュラムの2年生科目について、教科書の選定、シラバスの記述、授業内容などについて岩中教員から説明があり、それについての意見交換が行われた。次に、いわゆるコモンウェルス諸国を始めとして広く普及している英語の試験である IELTS についてマクラハン教員から説明があり、将来的には TOEFL 等と同様に全学共通科目英語の履修免除を認めていく方向で検討を始めることになった。

7. コミュニケーション科目「外国語」初修外国語分科会

司会・記録：高橋明郎（経済学研究院）

7-1. 夜間主コース提供科目について

当該コース設置以来初修外国語は輪番で講義を担当してきた。

最近受講者が当初より大幅に減っている。原因のひとつには入学者自体の減少があり、いまひとつは外国語の2単位を認めるために前期前後半通しの講義になっていて他の科目が半期1科目となっている中で履修しにくくなっていることがあると見込まれる。

一方教員側からすると、外国語以外の夜間担当は半期で終了するのに対し、いまなお一学期完全に拘束されること、昼の業務に関わりなく固定時間割に拘束されることから、負担が大きい。

この点について協議した結果、夜間の学生でも受講希望が皆無でないのは理解できるが、現在の受講者数に対し開講し続けるのは余りに不経済であり、後任補充が十分期待できない昼間の授業に力を向けるべきである。したがって、夜間の初修外国語についてはできる限り早期に閉鎖する方向で関係部会に働きかけたいということになった。夜間の学生については昼間の講義での受講を認めることで代替としたい。

なお夜間の学生から当該年度非開講であることを理由に前期昼の初修外国語を履修する希望があることについては、夜間に同一科目が科目表にある間は登録を認めない方針を確認した。

7-2. 後任補充について

2011年度の羽白教員に続き来年度は高木教員が定年退職に当たり、外国語担当者の不足が喫緊の問題である。共通教育の選択必修科目を支える分野について、後任補充について計画的に対応して欲しいという要望が強く出された。

[参加者アンケート集計]

本研修会を受けて参考になったところ、お感じになったところなどをお書きください。

- ・ 事務手続き（出欠管理システム）の使用方法等についてもっと詳しく説明してほしいかった。
- ・ 以前よりコンパクトになって良かった。
- ・ 事務手続き
- ・ アクティブラーニングの部屋（522、523、524）双方向に。
- ・ 全学共通教育の課程がよく理解できるプレゼンとなっていました。ご苦労様でした。野口さんの発表もスムーズで分かりやすい写真付きで良かったです。
- ・ アクティブラーニング教室機器の概要（が分かった）。中教審答申が共通教育スタンダードにどのように反映され、いかに授業・講義を通じて実現していくか、考えさせられた。事務手続き、シラバスの記入法を再確認した。
- ・ 大筋の概念が分かって良かった。
- ・ 広範囲の内容について手際よく説明いただき、有難うございました。アクティブラーニングのタイプ、パターンについてFDをお願いいただければ幸いです。
- ・ 遠隔講義システムですが、実際に触ってみて体験してみたかったです。
- ・ 全学共通教育の狙いが良く分かった。
- ・ 遠隔講義システムは幸町以外のキャンパスでは重宝しそうであるが、ネットワークが不都合な場合等の対応が課題であると感じる。
- ・ 講師の方々、ご説明ありがとうございました。個人的には新しい情報はありませんでしたが、新しい設備等が増えることはよいと思います。また、相関図は学生にとって役立つ良いアイデアと思いました。
- ・ 出席点の評価について知りませんでした。
- ・ 全学共通教育の全体像がつかめました。
- ・ 慣れからかえって、忘れがちな基本事項について教えていただきました。システムを教授していただき有難うございました。
- ・ 全体として説明者の話は分かりやすかった。（パワーポイントを使っているためかも）
- ・ 全学共通教育の課題（とくに、大学の教育計画の継続性、学部コーディネーター制の未実施）が良く分かりました。また、いくつかの提案（とくに全学共通科目個別相関図）には、提案内容の良さとともに、学生のためにどうすればよいかという真摯な姿勢に感服しました。自らの課題として取り組みたいと思います。
- ・ 中谷さんの話は勉強になりました。色々考えさせられます。ところで…参加者がとても少ない様に思えるのですが、どうしたのでしょうか？

大学教育開発センターでは、日々の教育活動に直接的に役立つようなFDスキルアップ講座等も実施しています。以下のうちで参加したいと思う講座がございましたら、その番号に三つまで○をつけてください。

学習評価の基本……………	3	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法…	0
ルーブリックを作ろう……………	2	わかりやすいシラバスの書き方……………	2
パワーポイント基本技・便利技	7	Webカメラで超簡単動画教材作成法……………	5
グループ学習のコツ……………	7	授業双方向性を高めるクリッカー入門編……………	1
講義のための話し方入門……………	8	学習動機を高める授業……………	8
大人数講義法の基本……………	7	心理学から見た教室デザイン……………	1
Eラーニング入門……………	1	研究室運営方法のコツ……………	2

その他、本研修会や教育FD活動、全学共通教育のあり方、あるいは広く本学の教育に関して望むことなどがございましたら、ご自由にお書きください。

- ・学生の不正行為の防止法、対処法について
- ・全学共通教育の改善は全国の大学で行われているようですが、ベストプラクティスと言われる試み等を紹介しても良いのではないのでしょうか。
- ・パワーポイントを基本から詳しく御教授いただきたいです。
- ・ご苦労様です。